教育研究研修センターだより

通巻 No.281　　令和５年１月１６日（月）発行

『自立に向かって成長する子ども』を育むための教師の人材育成

岡山市小学校長会長
岡山市立吉備小学校長　髙山　学

『国家の品格』（藤原正彦著 2005 年）で著者は，江戸時代末期の日本人の識字率が５０％という，当時最も近代的なロンドンの識字率２０％をはるかに凌ぐ世界一であったと述べています。このことは日本人が教育熱心なことと当時日本中に寺子屋ができて，そこで広く庶民の子どもたちが読み書きそろばんを習っていたことを裏付けます。その後，明治５年に学制が発布され，日本中に小学校ができると同時に，教員養成のための師範学校も順次全国に創設され，この時代から国が責任をもって教師の人材確保と育成を行ってきています。教師の人材育成については，教育現場に出てからも，研修制度の充実や脈々と続いてきた授業研究の歴史が教師の授業力向上に大きく寄与してきています。

これら教師の人材育成が功を奏して，全国学力学習状況調査の結果は，４７都道府県が近似値に揃うなど義務教育の質が全国で均一化されていると言えます。また，ＯＥＣＤの学習到達度調査（ＰＩＳＡ調査）の２０１８年調査でも，日本は全７９ヶ国・地域中，読解力で１５位，数学的リテラシーで６位，科学的リテラシーで５位と今尚上位にいます。特に２０００年以降のノーベル賞の受賞者数（自然科学系）は，アメリカ合衆国に次いで世界第２位になるなど，自然科学の分野での研究レベルの高さが優れた科学技術に繋がり，日本が加工貿易の国として今日繁栄しているのを支えていると推察できます。これも義務教育レベルの高さを長きに渡って維持してきたことがベースにあるのは言うまでもありません。

市小学校長会でも，今日の義務教育レベルを維持発展するために，３年前に教師の人材確保と育成を目指し人材育成対策部会を立ち上げ，市教委や大学とも連携して研究を重ねています。具体的には各校の創意工夫を情報交換したり，市教育研究研修センターと連携したり，大学生には教職の魅力を伝えたりしながらより良い人材育成の方法を模索しています。本校では，一人一授業と銘打って，毎年教師が一回は研究授業を行い，学年団や管理職を含む参観者と授業協議をして授業力向上を中心に据えた人材育成を行っています。学年団で教科・単元を決めて，学習指導案を練り上げて，教師個々が同一単元内の異なる場面の研究授業を公開しています。昨今はどの学校でも若い教師の占める割合が高くなっており，若手の人材育成は喫緊の課題です。経験年数の少ない教師が個人で熱心に授業研究に取り組んでも，その工夫には限界があります。先輩教師の研究授業を参観して，その優れた指導技術をまずは真似ることが授業力向上には最重要だと考え，その機会を多く設けて，実際の授業場面で指導技術を学べるようにしています。授業参観後，若手自らも研究授業をしていくようにしていますが，最近新採用教諭など経験年数の少ない教師の研究授業の質が目に見えて向上してきているのを肌で感じています。

このような取組と同時に教師の働き方改革を断行することで，市小学校長会では，教師が子どもの意識の流れを大切にした主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して，変化の激しい時代に対応した生きる力を身に付けた子どもを育むこと，つまり岡山市の目指す「自立に向かって成長する子ども」を育成していきたいと考えています。

研修を振り返って 初任者研修講座 新規採用養護教諭研修講座 新規採用栄養教諭研修講座

初任者研修講座

初任者研修は，教育に対する揺るぎない情熱，教育の専門家としての確かな力量，総合的な人間力を養うことを目的として年間16日の校外における研修と180時間以上の校内における研修を実施しています。

ここでは令和4年度に実施した校外における研修についていくつか紹介します。

【第５日】学習指導の進め方　令和４年６月９日（木），令和４年６月１６日（木）

ねらい

○先輩教諭の授業から教材や資料の扱い，指導の工夫や児童・生徒との関わり方等を学び，授業改善につなげる。
【育成指標との関連】Ⅰ－授業構想力，授業展開力，授業改善力

内容

○協力校で実際の授業を見ることで，児童・生徒に応じた教材や資料の提示の仕方や工夫，児童・生徒の意見をつなぎ，対話を促す発問や学習形態の工夫等，授業づくりの基礎・基本について学びました。

○授業参観後の協議では，他の初任者や授業者の先生と協議することで，自身の授業の課題に照らした授業改善のポイント等について学びました。

受講者の感想より

○子どもの意見を繰り返して言うのではなく「なるほど」と認めたり，板書に位置付けたりしていたことが心に残りました。国語では，文章中の言葉に立ち返り，言葉を根拠に子どもに発言させていたことが大変参考になりました。（小学校教諭）

○導入や雰囲気づくりについての様々な工夫や支援の仕方等，明日からの授業に生かせる具体的なヒントをもらいました。日頃から様々な分野にアンテナを張りながら過ごすことの重要性についても実感することができました（中学校教諭）

【第６日】心身の健康とストレス対処方法について　令和４年６月２３日（木）

ねらい

○ストレスに関する基本的な知識やストレスへの対処方法，セルフケアについて学ぶ。
【育成指標との関連】Ⅰ－人間性

内容

○ストレスに関する基本的な知識だけでなく，ストレスへの対処方法やセルフケア，適切なストレスとの向き合い方を学びました。

○相手への見方・考え方や自身の思い込みについて知ることで，自分を客観的にとらえ，教師自身の心身の健康につなげることができました。

受講者の感想より

○自分の性格の特徴を知ることができ，短所だと思っていた部分が長所になるのだと思いました。短所の見方が変わり，気持ちが楽になりました。（小学校教諭）

○自分はネガティブな思考になりがちなので，潜在意識から変えていき，ストレスとうまく付き合っていきたいと思いました。（中学校教諭）

講師：岡山コミュニケーション研修講演企画代表　稲田尚久

新規採用養護教諭研修講座

新規採用養護教諭研修は，12月8日（木）に最終日を迎えました。養護教諭の専門性に関する研修では，先輩養護教諭の保健室経営について学んだり，AEDを使用して救急処置について学んだりしました。
全8日間に渡る研修で，必要な基礎的素養に加え，体験的な研修を通して実践的指導力及び使命感を養うとともに幅広い知見の習得を図りました。

【第2日】
「救急処置」

受講者の感想より

○初任者や新規採用栄養教諭の同期の先生と一緒に学ぶことで，新たな視点やアプローチの仕方を学ぶことができました。

○1 年間の研修を通じて，自分がどんな養護教諭になりたいのか，どんな保健室経営をしたいのかが見えてきました。

○この1年間の学びをもとに，これからも多くのことに挑戦し，勉強し続けていきたいと思います。

【第3日】「学校環境衛生・衛生管理・健康教育」

【第7日】「保健室経営」
岡山市立鹿田小学校
岡山市立桑田中学校

新規採用栄養教諭研修講座

新規採用栄養教諭研修は，11月29日（火）に最終日を迎えました。全8日間の研修の中で，栄養教諭の専門性に関する研修では，先輩栄養教諭の学校での給食調理場の見学や，学校給食センターで身体測定機器やChromebookを使用した食育について学びました。
また，他の校種や職種の先生との合同の研修では，栄養教諭の視点以外の新たな視点を学ぶ機会になるとともに，教諭や養護教諭との同期の絆を深めることができました。

【第5日】
「特別活動」

【第7日】
「給食管理の実際について」
岡山市立宇野小学校

【第7日】
「身体測定機器等を活用した食育について」学校給食センター

受講者の感想より

○研修を通して，専門的なことだけでなく，教職員として必要なことも学び，私にとって大きな糧になりました。毎回，新たな発見や気付きがあり，その度にこうしてみたい！と思うことができました。研修で学んだことを活かして，これからも頑張ろうと思います。

学校園の教育実践

「おもしろい！」と感じ、遊び込めるような遊びの環境づくりや援助の工夫

岡山市中山認定こども園

１．はじめに

本園では、「人とのかかわりを楽しみながら、互いに育ち合う子どもを育てる」という研究主題で研究を進めてきました。

昨年度の研究から、子どもの興味や発達について教諭同士が話し合い、環境を整えていったことで、子ども自ら「やってみよう」「もっとやりたい」という気持ちが芽生えたり、遊びの展開を記録にとることで、保育者が子どもの姿を肯定的に捉えたりすることに繋がったという成果が見られました。

２．本園の取組について

今年度は、昨年度の取組を深めていくために、子ども達が「おもしろい！」と感じ、遊び込めるような遊びの環境づくりと、じっくり遊びに関わったり、繰り返し試したりできるような遊びの時間を保障することを意識し研究を深めることにしました。

また、それぞれの遊びの中で育まれているものを、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と照らし合わせながら、整理していくことで小学校教育との接続を意識することにしました。６月には、中学校区での公開保育を受け、実際に小・中学校の先生方に子どもを中心とした保育の取組を見ていただき、協議することで、目指す子ども像や就学前に行っている教育及び保育の意義について共通理解ができ、小学校との接続という点でよい機会となりました。

３．中学校区での公開保育の概要

①園の取組について
②本日の保育について
③幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について
④グループ協議

協議の中では、砂場遊びから見られる各年齢の発達段階や、それぞれの遊びの中に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、どのように組み込まれているのかなどを映像や写真を交えながら話し合いました。楽しく過ごす中にも環境への配慮や子ども達同士の関わりを見守りながら、よりよい援助をすることの必要性や、子どものつぶやきや発想を大切にし、子どもが思ったことや考えたことが繰り返し試され、実現することができる環境など、子どもが主体的に活動するために、どのような環境を用意し、どのように援助していくのかを深く学ぶことができました。小・中学校の学びのスタイルとは違うが、目指す子どもの育ちについては、同じだということも理解できました。

４．次年度に向けて

公開保育を通して学んだことは、振り返りの時間の大切さです。振り返りの時間をもつことで、その日のある遊びに関わりがなかった子ども達もイメージを共有し、次の日の活動に参加することができます。その時間が、日々充実するように努めていきたいと思います。また、子どもの育ちを幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿と照らし合わせながら、指導計画の改善を行い、それが後に小学校へのスタートカリキュラムにどう繋がっていくのかということを意識しながら、全職員で保育を行っていきたいと思います。